

新潟都心の都市デザイン

—開港 150 周年を契機に次世代のまちづくりを考える—

目次

1	はじめに1
2	新潟都心の都市構造の変遷と今後2
3	新潟都心の都市デザイン3
4	次世代のまちづくりに向けて4

1 はじめに

①なぜ都市デザインを描くか

求められている拠点性の向上

- 少子・高齢化に対応し、持続可能な都市になるため、市民が集うにぎわい創出や交流人口の拡大による活性化が不可欠

拠点性向上のための都心部の役割の明確化

- 中核的な業務・商業機能が集積する都市の象徴的な市街地
- 様々な魅力・交流から、新たな情報発信や文化が創造・発信される場所
- 高次都市機能が集積した「都市の顔」

新潟はまちづくりの節目を迎える

- 2018年度は開港150周年や新潟駅の高架駅第一期開業など新潟のまちづくりが大きな節目を迎える

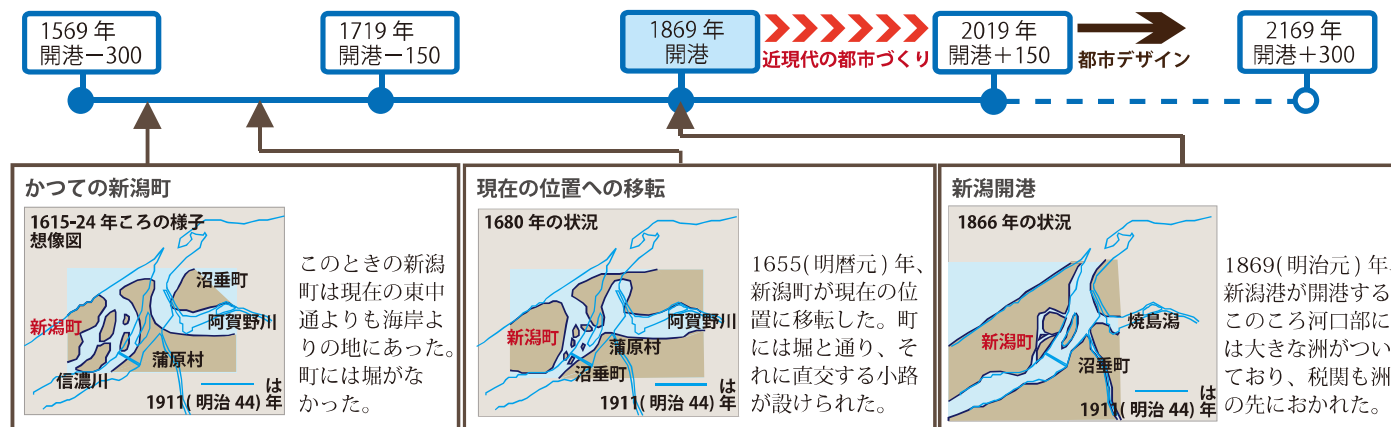
都市デザインのポイント

- 新潟がこれまでの歴史の中で蓄積したものを集積し、それが市民のくらしと結びつくような、魅力ある新潟のイメージが持てるデザイン
- コンセプトが明確でわかりやすく、共通の視点をもつことでこれからのまちづくりに活かせるデザイン

②都市デザインを描くために

次の150年を見据えるために

- 開港から150年を迎える節目の今、これまで続いてきたまちづくりの流れを途絶えさせることなく、新しい新潟の都市デザインを描くために、現在の新潟に至るまでの都市構造の変遷を振り返る



都市デザインの基礎

- 信濃川の恵みにより発展してきた新潟は、川がもたらす砂と水への対応を通じて、その都心を形成してきた
- 一方で、信濃川の流れに向かって垂直に交わる都市づくりを行うことで、新潟は発展の礎を築いてきた

2 新潟都心の都市構造の変遷と今後

参考資料：新潟歴史双書

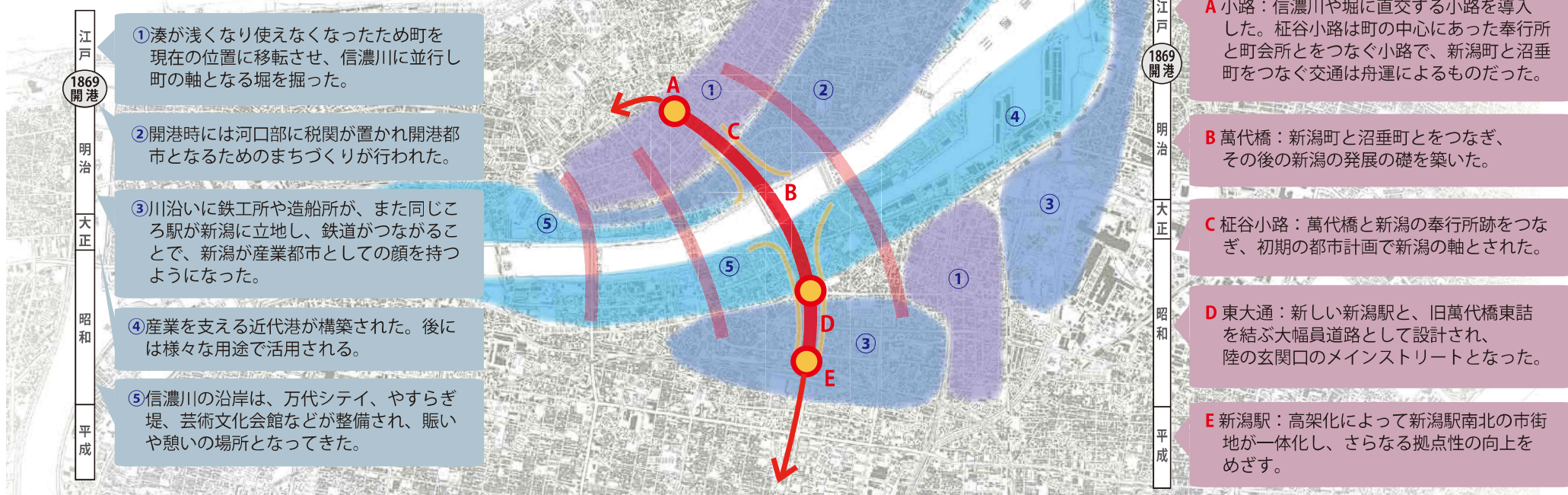
①新潟都心の都市構造の変遷

信濃川に並行する 横の都市づくり（面）

かつては堆積する土砂に対応して町の形を合わせてきたが、分水路開通などで、川の流れをコントロールできるようになり、埋め立てをはじめ水辺利用に取り組んでいる。

信濃川に垂直な 縦の都市づくり（縦軸）

信濃川に沿って層のように分布する新潟の町と町をつなぐことで、異なる新潟の機能を一体化し、さらなる発展を導いてきた。代表的かつ重要な軸は、都心軸。



②今後の都市デザイン

- 開港から 150 年、新潟の都心は信濃川に向かって層状に拡がり、それらの市街地が縦の軸によって深くつながり発展してきた
- 層状に拡張した市街地の中では、さらにその空間が高度化・多機能化し、今まで発展を支えてきた都市機能の更新や身近なまちづくりが始まっている
- これからの新潟都心の都市デザインは、それぞれの面の成り立ちや特色を活かしたまちづくりの上に、みなとまちの発展の歴史を、歩行者や公共交通で移動する人が実感できる、信濃川や港を核としたまちづくりを展開する

3 新潟都心の都市デザイン

①都市デザインの出発イメージ

新潟を特徴づけてきた、奉行所から始まる軸の都市づくりは、150年かけて新潟駅へとつながってきた。

開港150周年を契機に、今度は新潟駅から、地域への愛着と誇りを醸成するような、人を中心とする新しい新潟の軸を考える。

新潟駅から始まる新しい新潟の軸とは…

- かつて信濃川に並行して堀と通りが設けられ、それが新潟の都市構造となったように、今度は、信濃川に向かう新しい新潟の軸として、都市構造を構築する
- それぞれのエリアで特色あるまちづくりが展開され、通して歩けばこれまでの新潟の歴史を理解できるような軸を目指す（新潟駅～古町間で約2km）
- 将来的には、この軸が新潟の都市イメージとなり、新潟にとっての「都市」のアイデンティティとなることを目指す

参考イメージ

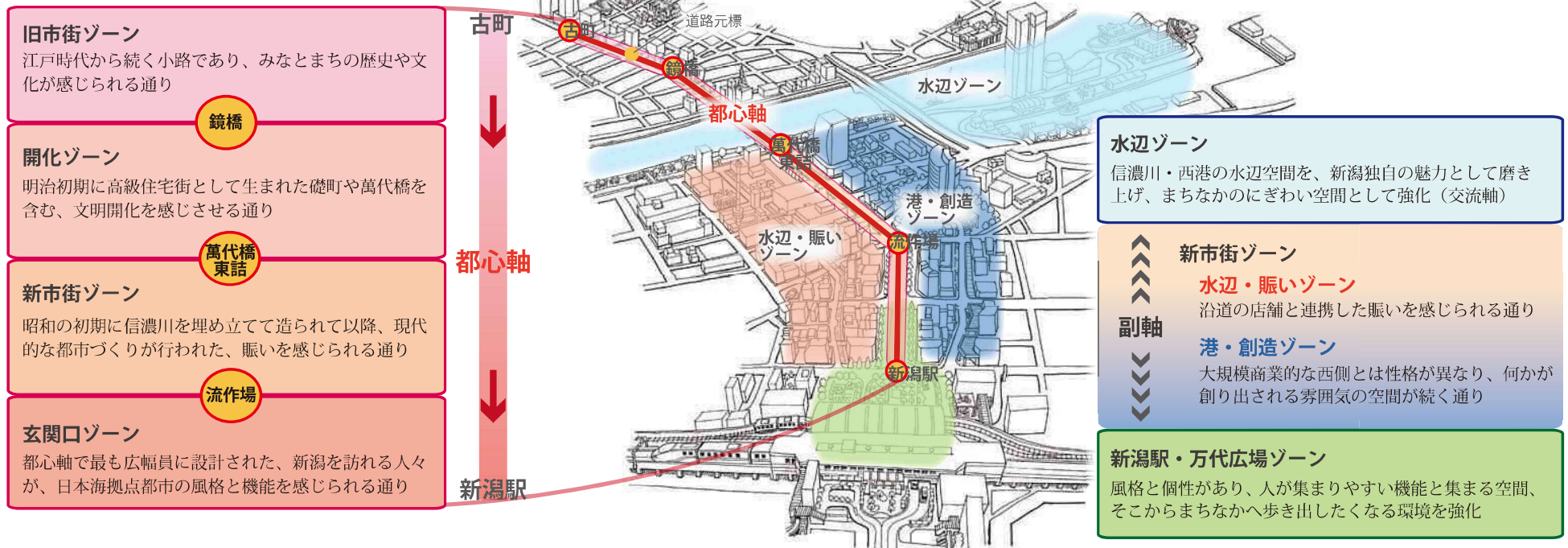


シャンゼリゼ大通り(パリ)…約2km



御堂筋(大阪市)…約4km
※写真はイルミネーションイベント

②新潟駅から始まる取り組み



4 次世代のまちづくりに向けて

開港から 150 年をかけて形成されてきた不動の軸（新潟駅～古町）を、
次世代のアイデンティティとしていく

